

ナナカマドの植樹について

令和3年度 緑の審議会資料
2021年(令和3年)8月25日(水)

○ナナカマドについて



ナナカマドの花



ナナカマドの果実

- ・北海道の自生種
- ・バラ科の落葉広葉樹で樹高7～10m
- ・樹形は枝が広がって張り出し、全体的に卵球形となる
- ・初夏には白色の花をつけ、紅葉・赤く熟す果実が特に美しく、果実は冬の半ばまで木に残る

○市民の木に制定された経緯

- 昭和39年 旭川市の特色を育てる目的で青年会議所が中心となりナナカマドを旭川の象徴にしようと「ナナカマド運動」を提唱
- 昭和40年 市も全面的に支援し、「ナナカマド植樹運動」が始まり、市民から寄贈等を受けた約80本のナナカマドが緑橋通に植栽される
「ナナカマド運動」が市民に広く浸透
- 昭和45年 市の組織に「緑地公園課」が設置。みどりの量的拡充を目的にした市民参加による緑化大作戦が展開され、ナナカマドを植栽する運動も全市的に広がる
- 昭和51年 「旭川市みどりの市民会議」からの陳情を受け、市民の木として制定

○ナナカマドの浸透

市内でナナカマドにまつわるものが多数存在



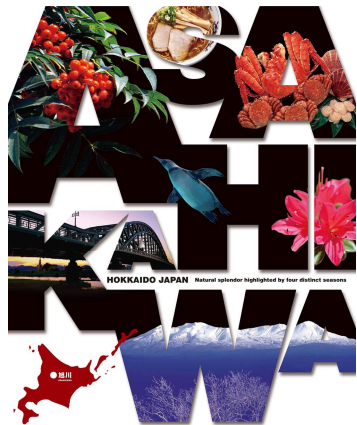
道路の雨水柵蓋やマンホール蓋



事業所名や店名、ロゴデザイン



○ナナカマドの浸透



旭川市の観光ポスター



緑橋通のナナカマドイルミネーションの様子

道新 **ななかまど**

北海道新聞のフリーペーパー「ななかまど」



ナナカマドの赤い実をイメージした
ブランドカラーに変更された
カムイスキーリンクスのロゴ

《市民の木＝旭川市のシンボル》として
広く旭川市民の生活に定着

○街路樹の植栽状況

昭和45年から始まった緑化大作戦以降のみどりの量的拡充により、現在では約4万本の街路樹が整備されている。(うち、ナナカマドは約9,000本)

樹種	市道(本)	道道(本)	国道(本)	樹種別合計(本)	比率(%)
ナナカマド	6,081	2,517	499	9,097	21.6%
イチョウ	4,811	1,396	531	6,738	16.0%
カエデ類	2,510	191	213	2,914	6.9%
プラタナス	2,001	343	247	2,591	6.2%
サクラ類	1,971	67	336	2,374	5.6%
イヌエンジュ	1,337	230	69	1,636	3.9%
アカナラ	1,065			1,065	2.5%
ハルニレ	938	495	598	2,031	4.8%
アカシア類	591			591	1.4%
ネグンドカエデ	370		97	467	1.1%
シラカバ	353		391	744	1.8%
カツラ	320		129	449	1.1%
ポプラ	172		8	180	0.4%
ヨーロッパアカマツ	1,367			1,367	3.3%
ヨーロッパクロマツ	339		541	880	2.1%
その他広葉樹	2,208	135	718	3,061	7.3%
その他針葉樹	1,667	142	4,054	5,863	13.9%
中高木合計	28,101	5,516	8,431	42,048	

旭川市内の街路樹の約20%を
ナナカマドが占めている

市としては約3万本の街路樹を
維持管理している

令和元年度末時点

○街路樹維持管理の課題

①剪定本数の減少

維持管理費は横ばい

労務単価の上昇や大木化による
1本当たりの剪定費の増加



剪定できる本数が年々減少し、街路樹を
適正な大きさに維持できなくなっている

②街路樹の老木化・巨木化

・昭和50～60年代に多くの道路整備が行われ、合わせて街路樹も整備されてきた

植栽後40年程度経過している樹木が増加

・近年の気象状況の変化(台風被害や異常気象など)

枝折れや倒木, 枯木の増加

・伐採による空き枿, 切株状態の箇所が増え, 景観上
悪影響を与えているが, なかなか補植が出来ていない

限られた予算の中で適切に維持管理していくには,
街路樹本数を抑える必要も・・・



補植されず切株が目立つ道路

○維持管理上のナナカマドの課題

○枝折れ、幹折れが多い。また、それに伴い樹形が保てない。

強風時の被害状況(過去3年)

	令和2年8月7日	令和1年6月16日	平成30年9月5日
	強風	強風	台風21号
街路樹等被害件数	105	15	80
うちナナカマド	47	8	40
倒木(幹折れ・根返)	29	4	34
枝折れ	18	4	6
ナナカマド被災率	45%	53%	50%



枝折れしたナナカマド

被害樹木の約半数がナナカマド

なぜ？

ナナカマドの性質として…

- ・剪定を好まず、自然樹形が好ましい
- ・傷口から病気が侵入しやすい
- ・風衝樹形になりやすい



街路樹として…

- ・必要に応じ剪定しなければならない
- ・除雪等、傷がつきやすい環境
- ・市街地の道路では風向きが偏る

道路空間という制約の多い環境では健全に生育しにくく、
他の樹種に比べダメージが大きいのでは？
植樹空間が広い道路では比較的健全に育っている所もある

○道路緑化指針の改定

○旭川市では道路緑化整備指針(平成7年策定)に基づき道路の緑化を進めてきたが、平成29年に道路緑化指針を改定。既存樹木の再生保全や質の高い道路緑化の推進、維持管理費の抑制などの視点を追加。

維持管理費の抑制

- ・住宅街等の有効幅員が確保されていない生活道路
- ・信号, 標識, 交差点等に近接し, 交通安全上撤去が望ましい樹木
- ・植栽間隔が基準(6~10m)より狭く, 間伐が必要な樹木 …etc
沿線住民の理解を得ながら撤去

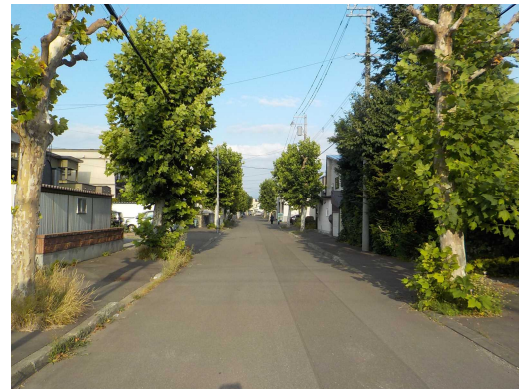


緑化の質の向上

- ・シンボルとなる路線, 幹線道路, 中心市街地などを重点的に補植, 既存樹木の再生保全



メリハリをつけることにより適切な維持管理の提供につながり, 景観向上, 緑化に対する満足度も向上



住宅街の街路樹の様子。
植樹樹が小さく幅員も狭いため、
枝を伸ばせず街路樹にとっても過酷な環境

○道路緑化指針の改定

○樹種選定の基準

- 1) 自生種を主体とし、旭川地方で生育可能なもの
- 2) 街路樹としてふさわしい美しい樹形となるものや、緑影を形成するものであること
- 3) 病虫害に強く、せん定や整枝が可能で、道路環境にも適応性があるもの(土質、排ガス、乾燥等)
- 4) 実が結実し花が咲くものや紅葉等葉色が美しいもの
- 5) 北国らしい道路景観を創出し、冬のみどりを創出するもの

上記基準を踏まえ、右表「維持管理軽減の視点で採用を控えることが望まれる樹種」を考慮し、

①今後植えていきたい樹種

②留意すべき樹種

③原則新植しない樹種

に区分分けし、植栽する樹種を選定

	留意すべき樹種の種類	樹種
	枝の伸びが速い樹種	・ニセアカシア、プラタナス、ポプラ類、ネグンドカエデ、バラソルアカシア、シダレヤナギ、シンジュ等
	倒木や落枝が危惧される樹種	・落雪の恐れのあるマツ類 ・ <u>ナナカマド</u> 、エゾヤマザクラ、サトザクラ、ヒメリンゴなどのバラ科の樹種 ・ニセアカシア、ポプラ類、ネグンドカエデ、バラソルアカシア、シダレヤナギ、シンジュなど
	虫害が発生しやすい樹種	・マツ類 (アカマツ、クロマツ、キタゴヨウマツ、バンクスマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパクロマツ) ・ブンゲンストウヒ (マツケムシの発生が多い) ・エゾマツ (エゾマツカサアブラの虫こぶが多発) ・カラマツ ・アズキナシ、イヌエンジュ、シナノキ、ニセアカシア ・ネグンドカエデ (アブラムシ、キジラミ、カイガラムシなどの発生→スス病を併発→樹肌が汚れ排泄物の飛散による被害が発生) ・エゾヤマザクラ、シラカンバ、ハルニレ、ヤマモミジ、シンジュ、ヒメリンゴ、ポプラ類 (ケムシやイモムシなどの発生)
その他の迷惑要因	トゲのある樹種	・ニセアカシア、バラソルアカシア
	花粉症を引き起こす樹種	・シラカンバ
	種子の綿毛が飛散する樹種	・ポプラ類、ドロノキ (市街地での植栽は避ける)
	秋の落葉に時間がかかる樹種	・ニセアカシア、プラタナス、ネグンドカエデ、シダレヤナギ、アカナラ、シンジュなど (一気に落葉せず清掃による地域住民への負担となる)

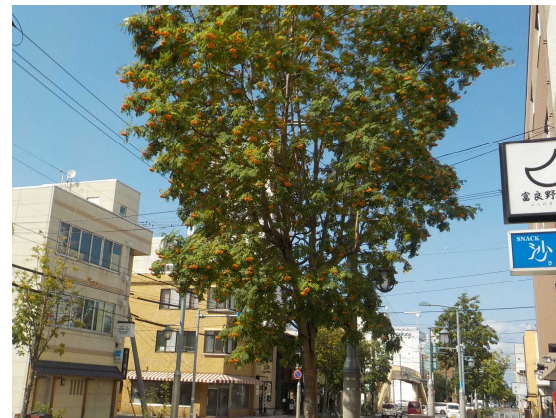
出典：寒地土木研究所「北海道の道路緑化に関する技術資料(案)」, 2011をもとに作成。

○今後のナナカマドの植樹

○街路樹としてのナナカマド

- ・花, 紅葉, 果実など街路樹としてのみどころが多い
- ・市民の木として認知され, 旭川市内で一番多く植栽されている
- ・近年の風被害の半数がナナカマドで発生
- ・道路緑化指針の樹種選定において維持管理軽減の視点で「留意すべき樹種」に区分

街路樹としての魅力が大きい一方, 維持管理上の課題もある



こういった現状の中で, 今後ナナカマドをどう取り扱っていったらよいか？